

令和6年度第2回子育て王国とっとり会議 議事概要

- 1 日 時 令和6年11月6日(水) 午後2時から午後3時30分まで
- 2 場 所 鳥取県庁特別会議室(一部オンラインにより実施)
- 3 出席者 参加者名簿(別紙)のとおり委員23名中17名の出席により会議成立
- 4 議事概要

(1) 子育て王国とっとり会議会長の選任について

事務局から鈴木 慎一朗委員(鳥取大学地域学部教授)を推薦。各委員の承認により、鈴木会長を選任。

(2) とっとり自然保育認証審議部会の委員の指名について(資料1)

資料により委員案、選任理由を説明。異議などはなく案のとおり指名された。委員任期は令和8年10月27日まで。

(3) シン・子育て王国とっとり実現に向けた令和7年度の施策検討について(資料2)

令和7年度に向けて検討中の子育て支援施策(案)について、資料の概要について事務局から説明し、御意見を頂いた。頂いた意見は、事務局において来年度の施策・予算への反映を検討することとした。

<各委員からの主な意見>

【男性の育休取得】

(木村委員)

- ・育休取得応援施策グランプリについて、高校生に限定してあるが、高校生だと子育てや結婚を考えるまでに時間が少し空いてしまうので、大学生にもやってもらったほうが将来の見通しも立ちやすく、自分ごととして物事をとらえて考えてもらえるのではないかな。

(禮場委員)

- ・男性の育休について、企業によっては3日しか取れなかったとか、1か月取れたとか、日数に幅がある。奨励金30万円を出すために日数の要件を2週間に設定されようとしているが、女性からは本当は1か月(は取ってほしい)とよく聞く。そうしたときに、育休が取れない企業が本当に多い。結婚された方々からも、まず取れないと聞いている。特に学校の先生が取れない。学校によって違うかもしれないが、その辺り改善していただけたら、子どもさん持ちたいという気持ちも変わってくるかもしれない。

(尾崎委員)

- ・育休取得応援施策グランプリについて、高校生、大学生と言わず、企業に勤めている方にも募集されてはどうか。

(中村委員)

- ・育休が取りにくいのは企業の判断によるところが大きいと思うし、取得が増えていくかは経済状況にもよると思う。出産直後の訪問、アウトリーチの支援、育児や家事のサポートは、待ちの姿勢だとなかなか浸透していくかコントロールできない部分も多いと思う。産後ケア、ファミサポの利用もなかなかハードルが高い状況の中で、もう少し育休が取ればいいが、取れない方もあるという前提で、例えば1時間、2時間でも家事をサポートしてあげるといった手法も、現実的などころで考えてみてはいいのではないかな。

(江原委員)

- ・高校生に対する育休取得促進策のグランプリについて、企業によって育休に対する理解度は全く違う中で、何も知らない高校生に、いきなり募集するのではなく、高校生に対してまず最初にその企業を知るための時間とかカリキュラムを設けてはどうか。
- ・家事代行という部分について、自分自身、片付けの現場に入ることが多いが、産後ケアに限らず、第2子が生まれたとかで子育て中の方からのSOSも非常に多い。ご飯を作るだけではなく、おうちの環境を整えることも余裕がないという方が非常に多い。産後に家事のサポートをする制度自体があるということだが、制度自体が知られてなければ意味がない。いろんな情報網を手に入れる方は、サービスがあるところに依頼してSOSができるが、子育て王国として産後や子育て中の世代の方に、家事代行やおうちの環境を整えるようなサポート体制を整えることが必要ではないかな。

【所得税控除額】

(伊木委員)

- ・昨今、にわかに103万円の壁の話が出てきたが、私の身の回りにも103万円で止めている方は多い。一旦、手取りが下がるかもしれないが、絶対突破しないと家庭環境も金回りも苦しくなるので突破してくださいとセミナーなどで伝えており、違いを説明すると、よく分かった、勘違いしていたとおっしゃる。(50人以下)

の企業では) 130 万円で社会保険がかかるが、将来的には全社 106 万円まで下げるとい流れできており、余計にそういう知識の広めがどこかの事業で必要でないかと思う。

【情報発信】

(井上委員)

- ・子育て支援の体制があっても知られていないのが一番問題。情報を一元化して届けることはもちろん、アプリとかサイトを見つけてもらわないといけないと思うので、産婦人科や子育てする方が必ず通る場所でアプリ登録の促進を併せて進めることで、もう少し多くの方に知ってもらえると思う。

(中村委員)

- ・情報発信について、例えばLINEを使うことは、行政のルールとかでできないものなのか。あまり認知度が高くなく、操作性も高くない独自のアプリを頑張って作り告知しても、基本的にはハードルが高いのではないかと思う。LINEのようにプッシュしていく、待ちの姿勢ではなく送りつけると、当事者もある程度嫌でも開くのではないか。そこにアプリの案内を載せるのもありだと思うが、リーチするという点で既存の、特にLINEのような通知が届くものは活用できるのではないか。
- ・この会議のメンバーはこれでいいと思うが、ワーキングママさんや、子育てに困っているお母さん方、育休を取りたいけど迷っているお父さんなどの直の声を聞く場はあるのか。そのニーズをちゃんと組む機能を強化していくべきではないか。
- ・広範囲に及ぶ子育ての分野について、この会議で議論がし尽くされないもどかしさを前々から感じていた。自然保育の部会があるように情報発信をどうしていくかという部会を立ち上げてはどうか。

(山田委員)

- ・鳥取市の子ども読書推進計画を立てる際に、LINEでの通知をとという意見があったが、それだとワンアクションで情報に届かないデメリットがある。通知を開いて情報に辿り着くまでに何アクションか必要になるが、ワンステップで情報が届く方法がいいということで、同計画のほうではQRコードからダイレクトに情報に辿り着く方法をとった。書店や図書館等の関係機関に名刺サイズのQRコードを置いて、その場やおうちで情報を取得していただくことができる。一度、QRコードでインスタグラム等に繋がると情報はどんどん入ってくるので、LINEよりはQRコードのほうが割合で手っ取り早く情報がワンアクションで届くメリットがある。

(山下(朋)委員)

- ・アプリやQRコード、どんな方法でもいいが、どうしたら自分が欲しい情報を得られるか。立派なものを作っても利用されない意味がない。小中学生の子どもがおり、チラシやいろんな書類を持って帰るが、全部見れなかったり、ぱっと見て終わりということもあり、埋もれたりもする。とにかく何回も何回も周知していただきたい。
- ・子どもがチラシを持って帰ってくるが、中身をよく理解していない。学校であれば先生から児童に、保育現場であれば保育園の先生からが保護者に伝えてもらいたいことをきちんと県から言ったほうがよい。

(磯江委員)

- ・とっとり子育て応援ガイドブックの電子化に関して、新しくなるごとにどこから情報を取り入れたらいいかわからなくなるところもあると思う。新しくなるごとにポスター等にQRコードなどを一緒に載せて保育園などに掲示すると、お迎えとか朝送りに来た時にお母さんが見て、読み取って情報を得ることができる。

(江原委員)

- ・小学生、中学生、高校生が色々なところから同じものを持って帰ってくるが、全部しっかりと目を通せているわけではなく、なんか見たような感覚になっている状況も多々ある。学校を通してマチコミというアプリを使って色々な連絡がリアルタイムに流れてくるが、マチコミは必ず全部見るようにしているので、こういう情報もマチコミを使って共有・周知できるといいと思う。

(梅原委員)

- ・学校教育で色々求められてることは、たくさんあると思う。学校にきちんと連絡を入れていただいた分については、保護者に連絡をしたり、生徒を通じて連絡したりしているが、十分に徹底できていない部分もあると思う。色々なところで会議が行われていて、色々なところから学校を通してという依頼をいただくが、学校のほうも、十分に連絡が行き届いていない部分は申し訳ないと思っている。
- ・マチコミも利用してやっているが、これも学校によって意見が分かれているのが、本当に緊急の利用だけに徹底している学校もあれば、色々なことに利用している学校もあるということで、結構まちまちになってる

状況がある。

- ・色々な面で学校の足りない部分もあると思うが、今後も学校教育のほうに、色々意見等を言っていたらと思う。

【情報弱者への対応】

(本庄委員)

- ・先ほどQRコードやLINEの話があった。そういうところで情報にアクセスしようとする人は繋がりやすいが、実際には情報弱者もおられる。困りに困ってどうしようもなくで私達の母子生活支援施設にやってくる方もあり、そこで繋がった方には職員がサポートに入り情報を聞いて支援制度を使っていけるが、制度の存在やメリットを知らない方も多い。できる人だけが使える制度ではなく、いろいろな家庭があり、いろいろな育ちをしている子どもがいるので、そういう方にも漏れなく情報が届き、繋がっていけるような手だてを作っていたらいい。

(山下(朋)委員)

- ・子育て応援ガイドブックの電子化に関して、毎年新しいものを出されているが、母子手帳交付のときだけ配布しても、次に新しくなった時には情報を知れない。先ほど情報弱者の話があったが、母が民生委員をされており、地域に新しい赤ちゃんが生まれると、その家庭を訪問する。そうした各家庭を回るチャンスに直接説明したり、市役所や小児の病院に行かれたときに情報があるなど、周知する回数が増えるほうがいい。

【子育て応援パスポート】

(磯江委員)

- ・子育て応援パスポートは、同一世帯の人しか対象になっていないが、おじいさんおばあさんが一緒に住んでいない人も結構多いと思う。隣同士でも対象にならないが、地域や周りの方が一緒に子育てすることを考えると、対象を広げないといけないのではないかと思う。また、対象者を広げつつ、協賛店を使うメリットを広く知らせていくべきだと感じた。

【放課後等デイサービス】

(山下(清)委員)

- ・障がいのある方への支援で、放課後等デイサービスの利用がしたくても空きがないと保護者から聞く。空きがないので学童保育を利用したり、お金が両方にかかったりという状況もあるので、市町村としてもそういったところの体制がもう少し充実していくといいと感じている。

【障がいがある子どもの相談】

(檜山委員)

- ・ASD(自閉スペクトラム症)など障がいがある子どもへの支援について、施設に相談するのも予約が必要で、予約を取ってから2週間後に話を聞いてもらえるといった状況がある。困りごとがあったら、すぐに頼れる場所を作っていたらいいと、障がいを持つ子の親はすごく楽になる。

【プレコンセプションケア】

(檜山委員)

- ・プレコンセプションケアで妊娠に向けた検査等をする場合に一部助成があるが、思春期の子どもへの教育も大事。学校では避妊のことをよく言われ、生理不順が将来の不妊に繋がることはあまり聞かなかった。生理不順の放置や酷い生理痛の我慢が将来不妊に繋がるかもしれないので我慢せず病院を受診すべきということを伝えていったほうがいい。

【産後ケア】

(山下(清)委員)

- ・産後の家事支援や、産後ケアもケアを必要とする人が利用できる制度が変わってきて、町としても困ってる人が取りこぼされないような周知の仕方をしていかないといけないと感じた。

(市川委員)

- ・利用者の声として、産後ケアは使いづらいということと、産後に起こるいろいろなトラブルを事前に知りたかったという声がある。産前ケアとして産後のことを知らせておくことが役に立つのではないかと思う。制度のことも産前に一緒に伝えておくといいのではないかと。

5 報告事項

以下3項目について、事務局から報告を行った

○鳥取県児童福祉審議会の新設及び幼保連携型認定こども園認可等審議部会の移管について（資料3）

○子どもミーティングの実施について（資料4）

○「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム in とっどりの開催について（資料5）

<各委員からの主な意見>

特になし

6 その他

次回会議の開催は、来年2月～3月を予定。意見の反映状況を報告するとともに、シン・子育て王国とっどり計画の見直し案について審議していただく。

－以上－